

「60分で分かる創世記」

1. はじめに

(1) 「60分で分かる〇〇」のシリーズを開始する。

- ①1節1節の解説も重要であるが、鳥瞰図的な理解も必要である。
- ②その場合重要なのは、「センス・オブ・プロポーション」である。

(2) 創世記について

①旧約聖書の最初の五書は、本来は「ひとつの書」として書かれたものである。

②最初の五書の呼び名

- *英語では「the Pentateuch」（5つの筒）と言われる。
- *ユダヤ人たちは、「トーラー」（教え）と呼ぶ。
- *一般的には、「モーセの五書」である。

③著者はモーセである。

- *モーセが誕生する前の情報もある。
- *神からの啓示があった。
- *残された記録があった。
- *イエスは、モーセが書いたと認めている（ヨハ5:45~47）。

④執筆の目的

- *カナンへの入国する前のイスラエル人のために書いた。
- *彼らは、イスラエルの歴史や出エジプトの歴史を知らない世代である。
- *何のためにカナンで生きるのかを知らなければならない。
- *モーセは彼らに、以下のことを教えようとした。
 - ・天と地の始まり
 - ・人類の始まり
 - ・罪の始まり
 - ・イスラエル民族の始まり
 - ・神の人類救済計画の始まり

2. アウトライン

(1) 人類一般の歴史（1~11章）

- ①天と地の創造（1~2章）
- ②アダムとその家族（3~5章）
- ③ノアとその家族（6~11章）

(2) イスラエルの歴史 (12～50章)

① アブラハム (12 : 1～25 : 18)

② イサク (25 : 19～26 : 35)

③ ヤコブ (27 : 1～36 : 43)

④ ヨセフ (37 : 1～50 : 26)

3. 結論

(1) 創世記とキリスト

(2) 創世記と黙示録

創世記を通して、あらゆることの始まりについて学ぶ。

I. 人類一般の歴史 (1～11章)

1. 天と地の創造 (1～2章)

(1) 地の強調

「初めに、神が天と地を創造した」 (1 : 1)

① 天使の創造、天使の墮落などのテーマは、省略されている。

② 天と地の創造に言及しながら、強調点は地にある。

③ 地上における神の主権が、これから展開されるテーマとなる。

④ イスラエルの民にカナンの地を約束されたのは、全地の所有者である。

(2) 人間の創造

「神は仰せられた。『さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて。彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配するように。』神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された」 (1 : 26～27)

① 人は、神の「かたち」に造られている。

② 人は、創造の冠である。

(3) 唯一の禁止令

「神である【主】は人に命じて仰せられた。『あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ』」 (2 : 16～17)

① 神への従順は、人を自由にする。

(4) 結婚

「神である【主】は仰せられた。『人が、ひとりであるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう』」(2:18)

- ①結婚制度の始まり
- ②女性は男性の助け手として創造された。

2. アダムとその家族(3~5章)

(1) 人類の墮落(3:1~24)

- ①蛇に乗り移ったサタンの誘惑
 - ・サタンの起源に関しては、触れられていない。
- ②霊的死の経験
 - ・園の木の間に身を隠した。
- ③罪の裁きと救いの約束

(2) 原福音(3:15)

「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく」(3:15)

- ①「おまえの子孫」とは、反キリストのことである。
- ②「女の子孫」とは、キリストのことである。
- ③キリストが反キリストに勝利することが約束された。
- ④「女の子孫」が今後の展開の主題である。

(3) アダムとエバの子孫たち(4~5章)

- ①カインとアベル
- ②カインから広がる子孫たち
- ③セツの誕生
- ④神は、アダムの息子たちの中からセツを選ばれた。
 - *「選び」も、重要な主題である。

3. ノアとその家族(6~11章)

(1) 洪水(6~10章)

「主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた」(6:5~6)

- ①神は、セツの子孫の中からノアを選ばれた。
- ②当時の世界は滅ぼされ、人類の歴史は8人の人たちで再スタートを切った。
 - *ノア、セム、ハム、ヤペテ、そして彼らの妻たち

(2) バベルの塔 (11:1~32)

- ①人類は、地上に広がらずに、一か所に集まってバベルの塔を建てた。
- ②神が介入され、言葉を混乱させた結果、人々は全地に散って行った。
- ③神の人類救済計画は、挫折していない。
- ④神は、ノアの子孫の中からアブラハムを選ばれた。

II. イスラエルの歴史 (12~50章)

1. アブラハム (12:1~25:18)

(1) アブラハム契約

「【主】はアブラムに仰せられた。『あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。』 (12:1~3)

- ①土地の約束
- ②子孫の約束
- ③祝福の約束

(2) アブラハムの選びの本質

- ①救いのための選びではない。
- ②全人類を救うための方法としての選びである。

(3) この契約は、無条件契約である。

- ①アブラハムとその子孫の失敗があっても、破棄されない。
- ②神のみが責任を負う片務契約である。

2. イサク (25:19~26:35)

(1) イシュマエルではなく、イサクが選ばれた。

- ①イサクは、約束の子である。
- ②アブラハムは、イサクを捧げよという命令に従うことによって、自らの信仰を証明した。

(2) アブラハム契約は、イサクに引き継がれた。

- ①「アブラハム、イサクの神」

仰

3. ヤコブ (27:1~36:43)

- (1) エサウではなく、ヤコブが選ばれた。
 - ①ヤコブの肉적인性質が神によって取り扱われ、靈的な性質が成長した。
- (2) アブラハム契約は、ヤコブに引き継がれた。
 - ①「アブラハム、イサク、ヤコブの神」
- (3) ヤコブに12人の息子たちが与えられた。
 - ①彼らは、12部族の始まりとなった。
 - ②特に重要なのが、ヨセフ族とユダ族である。
 - ③ヨセフ族は長子の部族となり、2部族を輩出した。
 - *マナセ族とエフライム族
 - ④ユダ族は、メシアを世に出す家系となった。

4. ヨセフ (37:1~50:26)

- (1) カナン文化との同化を防ぐために、ヨセフが用いられた。
 - ①彼の人生には、神の摂理が働いていた。
 - ②兄たちの悪意のゆえにエジプトに売られたが、それは神の計画でもあった。
- (2) 神は、イスラエルの民を隔離した状態で大きく育て、カナンの地に戻そうとされた。
 - ①イスラエルの民は、エジプトで400年間奴隷になった。
 - ②しかし、民族の記憶としてカナンの地への帰還を忘れることはなかった。

「ヨセフは兄弟たちに言った。『私は死のうとしている。神は必ずあなたがたを顧みて、この地からアブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地へ上らせてくださいます。』
そうして、ヨセフはイスラエルの子らに誓わせて、『神は必ずあなたがたを顧みてくださるから、そのとき、あなたがたは私の遺体をここから携え上ってください』と言った。ヨセフは百十歳で死んだ。彼らはヨセフをエジプトでミイラにし、棺に納めた」 (50:24~26)

結論

1. 創世記とキリスト

- (1) 神はことばによって天地を創造した。キリストは神のことば(ヨハ1:1~5)。
- (2) キリストは、最後のアダムである(ロマ5:1~21、1コリ15:45)。
- (3) キリストは、「女の子孫」である(ガラ3:19、4:4)。
- (4) アベルは、キリストの型である(ヘブ11:4、12:24)

(5) メルキゼデクは、キリストの型である(ヘブ7~10章)。

(6) 小羊は、キリストの型である(ヨハ1:29)。

(7) ヨセフは、キリストの型である。

2. 創世記と黙示録

(1) 神は天と地を創造された。

①神は、新しい天と新しい地を創造される(黙21章)。

(2) サタンは人類を攻撃した。

①サタンは最終戦争で敗北する(黙20:7~10)。

(3) 神は闇と光を創造された。

①いつか闇は消え去り、光だけとなる(黙21:23、22:5)。

(4) 神は水の集まった所を海と名づけられた(創1:10)。

①海は消え去る(黙21:1)。

(5) 神は人をエデンの園(シャカイナグローリー)から追放された(創3:24)。

①神は人をシャカイナグローリーの内に招かれる(黙22:1)。

(6) 神は人を「いのちの木」から遠ざけた(創3:22)。

①人は「いのちの木」から食べることができるようになる。

「自分の着物を洗って、いのちの木の實を食べる権利を与えられ、門を通過して都に入れるようになる者は、幸いである」(黙22:14)

まとめ:

(1) 創世記を理解したなら、それまでの人生観を一変せざるを得なくなる。

(2) キリスト教は、世界観であり、歴史観である。

(3) 創世記によって、霊的体幹を強くすることができる。